

新玉地区タウンミーティング

平成24年2月28日（火曜）

【市長】 皆さんこんばんは。今日、平日の夜間、お仕事の方ももちろんいらっしゃったと思います。お疲れのところ、また雨の中、こんなにたくさんお集まりいただきまして本当にありがとうございます。また、このタウンミーティングの受け入れにあたりましては、地区の広報委員会の川崎会長はじめ、役員の皆様にご協力いただきました、本当にありがとうございます。さて、このタウンミーティングですけれども、私が就任させていただいてから始めることにいたしました。松山市は41地区に分かれます、今日が19回目、19地区目ということになりますけれども、このタウンミーティングといいますのは、私考えましたのは、市役所で皆さんが来るのを待ってるほうが、楽と言えば楽ですよ。それでいいのだろうかと思いました。我々がこちらから出て行って、各地区で魅力についてお伺いする、そして課題や問題点についてお伺いしようと思ったのがはじまりです。各地区で魅力について最初お話していただきます。これはなぜかというと、行政が主体になって41地区のまちづくりをしたら、それは面白くない、どこを切っても同じ顔という金太郎あめのような地区がそれぞれにできてしまう、それが41集まった松山市なんて全然面白くないですよ。各地区の魅力、それぞれに歴史があり特徴があると思いますので、各地区の魅力を一番よくわかっていらっしゃるの、そこに住む皆さん方です。魅力について認識していただいて、その魅力を活かしたまちづくりをしていくとその地区は輝く、そしてその41の集合体である松山市はさらに輝くということが言えると思います。ですので、まずは皆さんに魅力について語っていただくというのを、各地区でやっております。そして、問題点、課題点も当然あるかと思しますので、それについても皆さんのご意見を伺おうというふうに毎回やっております。我々から出ていくという、しんどいことをしましようというのが一つ。もう一つ、このタウンミーティングは「やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない」というのが、松山版のタウンミーティングの特徴です。ここで聞いているふりをすると楽なんです。でもそれじゃいけない、必ずここで答えられることはお答えをいたします。また、ここで答えられないこと、それは国と絡むもの、県と絡むもの、財政的な問題がある

ものというのは、いったん持ち帰らせていただいて、1カ月をめぐり、必ず各地区にお返事を返させていただきます。なぜ1カ月かというと、例えばこういうご意見をいただいた、国に問い合わせる、県に問い合わせる、国や県から回答が返ってくる、それを松山市で受け止めて、どうしようかということを決めますので、1カ月くらい期間としてかかるんですけど、1カ月をめぐり必ず回答をお返すことにしております。「やりっぱなしにはしない、聞きっぱなしにはしない」というのが、松山版のタウンミーティングの特徴です。松山市の仕事というのは、本当に幅広いものでございます。松山市立の小学校、中学校とかもあれば、図書館もある、上水道、下水道もある、コミュニティセンターもある、競輪場もある、坊っちゃんスタジアムもある、マドンナスタジアムもあるというのが松山市の仕事でございます。それぞれに専門がありますので、今日は部長課長たちが来ておりますので、自己紹介をさせます。

【市民部長】 皆さんこんばんは、市民部長の三好と申します。このタウンミーティングを統括しております。普段の業務といたしましては、窓口サービスの充実という形で、市民課でありますとか、22支所7出張所、市民サービスセンター、パスポートセンター、消費生活センター、こういった業務をしております。一方、住民主体のまちづくりといった形でNPOとか住民の活力を活かしてのまちづくりを担当しております。よろしくお願いいたします。

【都市政策課長】 皆さんこんばんは、都市政策課の白石でございます。都市整備部では道路、公園等の整備及び維持管理等を行っております。どうぞよろしくお願いいたします。

【松山駅周辺整備課長】 皆さんこんばんは、松山駅周辺整備課長の松本と申します。松山駅周辺整備課という課は平成14年度に設置をされました。特に市が施行しております土地区画整理事業あるいは関連事業を進めております。よろしくお願いいたします。

【下水道政策課長】 皆さんこんばんは、下水道政策課長の青木と申します。下水道部では公共下水道の整備とか水路の整備、がけ崩れ防災対策事業を所管しております。今日は皆様の話を聞いてできる限り施策に反映させていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

【保健福祉政策課長】 皆さんこんばんは、保健福祉政策課長の太田でございます。

す。保健福祉全般を担当しております。今日はよろしくお願いいたします。

【消防総務課長】 皆さんこんばんは、消防局総務課の岡本でございます。消防、救急、地域防災と消防防災全般を担当しております。よろしくお願いいたします。

【市長】 という6人でございます、よろしくお願いいたします。今日は90分という時間でございますけれど、結構これは短いようで長い、長いようで短いんですけれども、あまり肩ひじ張っていると疲れてしまいますので、ざっくばらんな気持ちでやっていただきたらと思います。今日は前向きな議論を皆さんとさせていただきたらと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【男性】 新玉地区はJRを挟んで東地区が商業地域になってます。西側が田園地帯だったんですが今は開発されまして住宅地になっておりますけれども、通称西山と呼ばれています地域には大宝寺をはじめ文化財、遺跡、文化遺跡などが多くございます。そして東には堀之内があり環境には恵まれた場所だと思っております。今度開発されますJRの高架整備事業において西地区の南江戸地区はJRの駅が本当に近い駅になってくると思います。その中でいろいろな開発に対しての期待もしておりますし、そのことによって西側地区がいっぺんに環境整備がされてくると思いますのですごく期待をしておりますし、また、JR東側の大手町から堀之内に向けてもこれからも開発していただいて、これから全国から松山に来たら玄関口が松山JRへ来ていいまちだなというまちをつくっていただきたいと思っております。新玉地区は公民館を中心としてまとまっておりますので、すべての行事において社会福祉協議会その他の団体すべてが一括してまとまって公民館運動をしております。一つの行事するにしても全体が協力してできる、そういうような全体の公民館長なり先代の人がつくっておりますので優れた地域だと自信を持っております。これから皆さんとともに新玉地区がよくなるよう私たち役員が努力しながら、また行政の力を借りながら進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【男性】 ちょうど総合公園の真下に住んでおりまして、総合公園が非常に最近きれいになって、そしてその総合公園の下には朝日八幡、国宝のある大宝寺、山内神社というふうな歴史的な文化遺産がたくさんあると思っております。そして総合公園は昔から松山市民にとっては西山と言われて、春の小学校の遠足などにはたくさん今でも来ておられます。そして総合公園になる前はあの総合公園の下をもつ

と向こうへ行きますと大池と言って大きな池があって土手があってそこでお節句ごろにはみんながお弁当食べたりそういうふうな環境があったんですが、最近考古館ですかね、あそこら辺、あれも最近桜の木がたくさん植わって、あれがもう何年か経って太ると立派ないい花見の場所になると思うんですが。そして総合公園が非常に整備されてよくなってきてるのは非常に喜ばしいことだと思っております。それと、この大宝寺とかそういうものをもっと魅力あるものにしてこの地域の発展の材料にしていだけたらありがたいと思っております。

【市長】 はい、私は実家が旧北条市の河野地区でありまして、実家から考えるとこの新玉地区は本当にうらやましいところだと思っております。公共の交通機関はJRが1番近いんですけど自転車で15分走って行かなければ乗ることができません。病院もしかりです。自転車で20分ぐらい走っていかないとありません。そういうことから考えると本当に環状線も通ってますし、JRも近いですし、観光港も近いですし、空港も近いですし、そして文化的なもの、大宝寺さんは松山市内では3軒だけ国宝の建築物があるんです。大宝寺さんの本堂と、石手寺の仁王門と太山寺の本堂、これ3つだけです。で、これが国宝なんですけれども、松山城は国の重要文化財です、格が大宝寺さんのほうが上ですね。建築物でいうと道後温泉、国の重要文化財です、格が大宝寺さんのほうが一つ上ですね。そういういい施設、史跡がある。で、総合公園もある。うらやましいですね。古照遺跡もありますね。近くに考古館がありまして考古館も結構ユニークな学芸員もいまして、結構子どもたちにも人気の場所にもなってますけども、まさにそういう一級の資産が集まっているところが新玉ですので私も本当にうらやましいと思っております。今、皆さん、本当にいい資産がいっぱいあるのが新玉だなと認識してただけたと思しますので、本当に松山のいろんな方は新玉のことをうらやましいと思ってるんじゃないかなと思っております。そしてもう一つ、今後に向けてまさに発展をしていくところだと思っております。JR松山駅周辺整備事業とか、大手町通りは県道なのでたちまち松山市がすぐについてということにはならないと思えますけれども、JR松山駅の周辺整備ができれば大手町もこれからいろいろと変わっていく、発展していく可能性が大いにあると思っております。はい、ちょっとそんなところを述べさせていただきました。ごめんなさい、忘れてた、総合公園が平成25年度ですから平成26年の3月ぐらい、椿サミットが決まりまして、それに

あわせて総合公園もツバキの整備を一層進めることにしています。総合公園も時期がだいぶ経ってきましたので、ちょっと手を入れることになってますのでまた、魅力的なスポットになると思います。

【司会】 地域の魅力を共有できたところでテーマ2のほうへ移りたいと思います。松山駅周辺整備事業につきましては皆さんの関心が高いと思われまので意見交換に入る前にまず事業の概要について担当課長から簡単にご説明をさせていただきます。

【松山駅周辺整備課長】 私からは、J R松山駅周辺整備の全体の事業概要と今後の予定を説明をさせていただきます。まず、大きく2つの事業がございます。

1つは愛媛県が事業主体となる鉄道高架事業。鉄道高架は今治駅とか高知駅が最近完成したんですけれども、そういった鉄道高架を愛媛県が事業主体となって実施しております。その鉄道高架の区間なんですけれども、北は西環状線とJ Rが交差したところ、そこからじわじわと鉄道が上がってきましてJ Rの松山駅を超えて南は伊予鉄道の郡中線まで、距離で言うと約2.4キロございます。この間が鉄道高架をする区間で、その間に踏み切りが8カ所あります。例えばホテルサンルートの前前の南江戸踏切とか、亀井鉄鋼さんがある中の川通りの踏切、皆さんよくご存知だと思いますけれども、朝、夕、非常に混雑しております。こういった踏切は除却されて、混雑解消されてスムーズに行き来ができるようになります。そしてもう一つの大きな事業は、松山市が事業主体となります土地区画整理事業を16.7ha、東は駅前の南北の通り、北はホテルサンルートさん、南はサクラメント通り、西はアンダーくぐって最初に信号があります砂金の銅像があるところですが、南江戸一丁目と二丁目のちょうど境の南北の道路。この間で土地区画整理事業16.7haを松山市が実施しております。土地区画整理の概要は短く話させていただきますと、東側の駅前広場を、現在非常に狭いので拡張いたします。鉄道が高架になりますので西側に新たに西口の駅前広場を設置いたします。で、東西の駅前広場を結ぶ形、囲む形で30メートルの4車線道路をつくります。30メートルの4車線道路は両側に歩道も設置いたします。そして、東側に公園を1カ所、西側にも1カ所設置することとしております。あと、鉄道高架事業と土地区画整理事業の事業期間なんですけれども、どちらも平成20年度から事業着手をしております、完成は平成32年度を予定しております。ちょっと事業

が期間がかかるんですけれども、ぜひ、皆さん長生きをしていただいて、立派な駅になったところを見ていただきたいということで、あと関連事業としまして目玉の事業がございます。路面電車、現在大手町通りから古町駅のほう行っておりますけれども、この路面電車を延伸するというので、大手町通りから高架下へ路面電車を引き込みまして、JRを降りたらすぐに路面電車に乗れる。更に、鉄道が上がりますので高架下をくぐって、西環状線まで路面電車を約700メートル、西環状線は宮前川のちょっと北のところになるんですけど、ここまで延伸するというので、この道路、松山駅西口南江戸線というんですが、34メートル幅員の4車線、34メートルというのは大手町通りが幅員36メートルですので同じ規模の道路ができて、そこに同じように真ん中に路面電車が走るということで、道路は県が行って、市と伊予鉄道さんとで路面電車を延伸するという計画になっております。以上で概要説明を終わらせていただきます。

【男性】 新空港道路千舟町線、西環状線ですね、あれを土居田のところから南江戸のところまで高架をしてもらえることをお願いしたいと思います。あれはどれくらい期間でやってもらえるんですか。

【市長】 はい、土居田から。

【男性】 土居田から南江戸のところまで高架してもらいたいです。それですね、西環状線です、これです。

【市長】 高架ですか。

【男性】 そうです。ここまで高架するんですね。これをひとつよろしく申請してください。

【都市政策課長】 これ都市計画道路といいまして当初そういう4車線以上の道路につきましてはすべて高架の計画で、例えば天山交差点におきましても高架の計画でございます。しかしながら今の現状でまだ高架ができていないところでございます。また今、松山市でいいますとやっぱり天山交差点とか次は空港通り、そういうところが非常に渋滞しております。その後、今言われますところの高架になってくるわけなんですけど、今の現状ではなかなか費用対効果、また優先順位からいいますとこれ、国の管轄にはなるんですけど、非常に難しいと考えられます。

【市長】 はい、ちょっと私からお話をさせていただきます。今まずお話をしな

ければならないのは、やっぱり財政的な話をさせていただきます。皆さんもご存知のように今、国においては1千兆円という借金、赤字を抱えております。これ、割る1億人という、国民一人一人で割り算をすると一人どれだけ借金を抱えているのか考えるとちょっと恐ろしくなるくらい。誰かここまでするのに止めれなかったのかなと思うくらいです。で、皆さんもご存知のように国から地方に国庫支出金とか、地方交付税交付金という形でお金が回ってきます。でも、大もとの国が1千兆円という借金を抱えているならば、地方に回ってくるお金がこれから膨らむというのは考えにくい。ですので、選択と集中をしなければならない。例えば松山市においては1年間に出ていくお金を歳出といいます。円グラフを書いていただくとよくわかるんですけど、その1年間に出ていくお金、歳出の中で一番大きなウェイトを占めているのが40パーセントを占める民生費、福祉のお金が前の年と今年の年で松山市だけで50億増えました。で、そのうちの生活保護費、よく皆さん耳にされるとおもいますが、この生活保護費が前の年と今年の年で20億増えました。で、先ほど申しあげたようにこれから地方の財政、これは松山だけじゃないです、地方の財政が膨らむというのは考えにくいですよ。で、中四国の中で松山は比較的財政状況いいっていわれています。その松山ですらこのような状況です。例えば20億、生活保護費が膨らんだらばどっかで削らないと財政は下り坂になってしまうということです。で、私は自分の生まれ育った松山で、皆さんからこうやってタウンミーティングで「こうしてください、ああしてください」と言われて人間ですからできたら「わかりましたそれやりましょう、これやりましょう、あれやりましょう」って言えれば楽です。言えれば楽ですけれども、そうやってやると市長の人気取りにはいいかもしれませんが、将来の子どもや孫につけを残すことにほかならないんです。だからといって何もしないわけではない。選択と集中を考えて今何をすべきなのかという順位をつけてやってまいります。道路のことで申し上げますと、今、松山が真っ先にすべきは外環状線の整備だと思います。それは松山インターチェンジと松山空港の間、全国の拠点空港24地区で調査をしました。インターチェンジと空港どんだけ時間かかりますかって調査したら、「30分以上かかります」って言ったところが4地区あります。それはどこか。松山空港と北海道の3つです。そりゃ北海道のあの広大な大地と比べてはいけないと思います。つまり松山は時間がかかり過ぎてるん

です。松山インターチェンジからいっぺん国道33号で中へ入ってきて環状線をぐるりと回って新空港通りに行ってからいかんといかん。わざわざまちの中に入ってこいでもええのに入ってくる形になってるからです。ですから外環状線をつけることによって30分が10分に縮めることができる。これはただただ短縮できるという話ではなくて、大きな災害が起こった際の緊急の避難路になる輸送路になる。そして町なかの渋滞が解消されることによって、排気ガスを削減することができます。車が渋滞していたら子どもさんが飛び出してバイクにぶつかってけがをする。そういう交通事故も減少させることができる。貨物の方がちゃんとした時間に届けることができるようになる。そういったいろいろないい面があるので、まず松山では外環状線を先に整備すべきだということで今進めているところです。なんぼでもお金があればいろんなことができると思うんですけども、どうしても優先順位をつけながらやっていかなければならないというところをご理解いただいたらと思います。

【男性】 いくつか質問させていただきます。この直接の都市計画には関係ないかも知れませんが、今市長がお話いただいた費用と安全というところでお話をさせていただきます。私、花園の近くに住んでおります。今回、花園町線道路の整備の活用調査の検討業務が出されております。これにつきまして、一つは観光のためにやるっていうのはわかるんですけども、我々住民としましては、長短あるんですけども、一つは、住環境が豊かになるということでそれは非常にいいことだと思っております。その反面、今言われました車の渋滞によって裏側の道に抜け道で車がたくさん走ると。生活道路に車がどんどん走っていくということが考えられます。そういったところについて、仕様書では調査を十分されるというふうになっておりますけれども、例えばこの中でアンケート調査っていう項目があります。このアンケート調査の中には、例えば、調査対象として、「花園通り沿線に立地する事業所及び従業者、商店主及び事業者」に限定されているわけです。これなぜ住民が入ってないんでしょうかというところです。その後に「その他必要に応じて関係者等にアンケートやヒアリングを実施する」ってなってますけど、この関係者というのも位置づけがよくわかりません。また、このアンケート調査、もう一つ道路利用者アンケートというのがあります。こちらには、「対象地区内の居住者や云々調査する」とあるんですけども、この中に「歩行者、及

び自転車利用者のアンケート調査を行う」とされております。しかしながらですね、車の利用者に対するアンケート調査というのはないんですね。この辺が私から見ますともう少しきめ細かく調査業務というのを進めていただいて、なおかつ今ある程度調査進んでると思うんですけど、沿線である花園通りにあるマンションには、今いろいろ説明会を担当の方からしていただいているようです。ですがその一つ裏手に入ったところのマンションには、そういった説明一切なされてないです。こういう状況につきましても、実際この対象地区にあるにも関わらずそういう情報開示の不平等が発生している。こういうことにつきましても改善をぜひお願いしたいというところでございます。以上です。

【市長】 これ私、ちゃんと真の私の思いというのをおしゃべりできますがどうしましょう。多分花園町通りのことについてしゃべりだしたら5分10分かかると思うんですよ。新玉地区と直接ではちょっと離れますかね。ですのでちょっと申し訳ないんですけども、まず新玉地区のことについて皆さんから課題、問題点言っていただいて、その後っていうことにさせていただけないでしょうか。もし、新玉地区の話題がずっと20時30分まで続いたならば、私の思いっていうのはちょっとお話をさせていただきますので。はい、まず新玉地区の話題を優先させてもらえないでしょうか。お願いします。

【男性】 はじめまして。よろしくお願いいいたします。私たちのまちはこの区画整理事業のど真ん中になっておりまして、当然地元の町内会におきましても平成13年くらい、契約の段階からこの事業をぜひ完成させようと、協力させようということをキャッチフレーズにやってみりました。そういうところで現在も区画整理事業と同時に、こういったまちづくり協議会をつくりましてやっております。その中で私たちは常日ごろまちづくりについて、あるいは松山駅はどういう形でいいものができるかということでも話し合ってますけど、具体的にイメージわからないんですよ。それでどういうイメージを持って、具体的なビジョンを持ってこれからこういうまちができるというのができるようでしたらお答えいただきたいと思います。それからこれ私たちの区画整理事業の中のことなんですけれども、今ちょうど仮換地指定の作業を、審議会の中でやってるんですけども、いろいろ問題がございまして。具体的には申し上げませんが、これはぜひこの問題点をつぶして、事業が本当にますます前進しますように、私たちもこれから協

力していきたいと思しますので、この点につきましてはこの場でそぐわないと思しますので別の機会に回答いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【市長】 はい、じゃあ具体的なことについて、はい。

【松山駅周辺整備課長】 ご質問ありがとうございます。松山駅周辺整備課の松本です。まず、JR松山駅周辺の、まちづくりのコンセプトといいますか理念ということで、市のほうで考えておりますのは集客、集客というのは人が集まるというようなイメージです。そして集住、人が住む、そしてコンパクトシティ、まちが一つのまとまりがあるところということで、JR松山駅、陸の玄関口になりますのでそれに見合うまちづくりということで、道後地区とか大街道、銀天街地区とはまた別のまちづくりをしないといけないと考えております。また、身の丈に合ったものにしていかないといけないということも一つあります。先ほどお話がありましたように、駅から東のほうは大手町通りも含めて、戦災復興の土地区画整理事業が終わっております。今後駅舎も含めて、立派な人が集まるものにしていくわけですが、駅の西側につきましては、現在道路が狭いところもあつたりいたします。救急車が入れないというところもありますので、基本的に6メートル以上の生活道路を整備いたしまして、特に住環境ですね、これに適したものにしていきたいと考えております。あわせて、市と県がJRさんから土地も取得して、市の施設も今後具体的に検討していきたいと考えております。以上です。

【司会】 それではほかにテーマ2について、はい。

【男性】 JRの松山駅は、四国の中や全国でも、1番みすぼらしい駅じゃないかなと思ってます。もうご存知のように四国内でも高松、徳島、高知はすべて駅の周辺整備がなされておりますし、私が知ってる限りではほとんどもう県庁所在地の中でも、全国で1番2番争うくらいみすぼらしいんじゃないかなと思うんですが、これも皆さんご存知のことだと思うんですけど、最初は国体に合わせて高架事業とか区画整理事業が完成されるといわれてましたのが結局2年遅れて平成32年度ということに今、目標年度がなってるわけですけど、これをぜひ、もうこれ以上延ばすことなく32年度内には完成をぜひお願いしたいというのがまず一つお願いでございます。それと区画整理事業もそうなんですが、操車場と貨物基地の跡地が大きな空き地ができるわけですが、これも何回も私もご

質問させていただいたんですけれど、それをどのように利用されるのか、というところがいまだに具体的ななんは何も出てないと。で、いつも行政の方が言われるのは住民の意見を聞きながら検討させていただきますというような意見で、さっきコンセプトって言われた集住、集客、コンパクトシティですか、それをどう落とし込んでいってどう具体的な案をつくられてるのかということですね、もう8年後ですから、もうそろそろ、そういったとこの具体案を提示していただくべきではないかと思っております。以上でございます。

【市長】 私のほうから答えられることは答えましょうか。これはですね、例えば何ができますって言うとそれがひとり歩きをしてしまう部分があるんですね。で、計画として、また言える段階になったら、ひとり歩きをするという面がありますので言える段階になったら確実にお知らせをいたします。もう少し待ってくださいというのが申し訳ないところなんですけれども、私からはそういうことで。具体的に何かあったら聞かせてください。

【松山駅前周辺整備課】 まず、最初のご質問のスケジュールの件ですけれども、先ほど言いましたように平成20年度から鉄道高架と区画整理事業始まっております。で、実は愛媛国体は平成29年、愛媛県単独の国体があるということで鉄道高架事業の事業認可のときに平成32年度の完成ということを平成20年度に発表しております。そういったことで、平成32年度を目標に、市も県も、先ほど市長から話がありましたように全力をあげて取り組んでおりまして、現在平成23年度の終わりですけれども一応スケジュール通り、現在進んでるということで、32年度の完成目指して全力で取り組んでまいります。

【男性】 32年度に完成予定しておるようだけでも、32年度に周辺の整備はできた。だけど、JRの跡地をどのように使ってまち全体を活性化するか、にぎやかにしていくか市長さんにちょっと答えてもらいたいと思います。

【市長】 はい、そうですね。ちょっと重なるかも知れないんですけど、やっぱり、大街道、銀天街の地区とこちらが同じような機能を持たせたら、いわゆる食い合いになってしまうと思うんですね。ですので先ほど申し上げたように大街道や銀天街とか道後温泉とかはまた違った機能でこちらをまちづくりをするというふうに考えております。で、ちょっと具体的に、じゃあ何をつくるんだということについては、ひとり歩きをしてしまう面があるので、言える段階になったらお

話をいたしますということになります。課長から何かつけ加えて。

【男性】 もう時間ないですよ。もう32年度なんかすぐですよ。今から考えてないと何もできん。

【市長】 考えてないことはないんです。考えてるんですもちろん。私たちも皆様の税金を使わせていただいて事業をやるのですからもちろん考えてるんです。はい。

【松山駅前周辺整備課長】 施設の検討につきましては当然市の内部でも十分検討を進めております。これは市の内部だけではなくて当然市民の皆様広い範囲で合意を得て進めていかなければ、これからの時代難しいと考えております。今23年度ですが、24年度から、そういった外部の方も含めて、進めていこうと考えております。

【男性】 ちょっとご質問申し上げたいんですが、この問題につきまして、歴史的な背景をお話しますと、平成3年度に新玉公民館で新玉の未来を拓こうということでシンポジウムを行いました。それで交通体系の改善と教育問題、グローバル化の問題と3点か4点議論しまして、今JRの駅東と踏切西の一体化を図り平面通行帯をつくっていただこうというのが大きな願望で、そのときに、県のほうへも陳情に行きました。そうするとお答えが、市駅前の開発が終了後でないと駅前にはお付き合いできません、こういう事務当局の答えだった。こりゃあかん、もう相手にしてもいかんけんやめようということで撤退、一時撤退陳情、事業を止めました。そして、そのときにもう1点の交通体系の改善というのは伊予鉄道高浜線をJRと同時に高架にして、JR駅に引き込んで、そして古町のほうへ回していけば県外県内からのお客さんが市内に入るんできるんじゃないのかと。いろんなところに入る、利用客も増えるんじゃないかということでしたが、それは残念ながらパスをされましたが、ただ、今お願いをしたいのは、高浜線で新玉校区内に11カ所の横断してるわけです、道路。その中に国道もあります。特に千舟町線におきましては特に、時期によったらこの公民館前くらいまで車が渋滞している、危険極まりない。そして校区民はかなりそのために日常生活に不便しているという状況にあります。この問題に市として取り組んでいく気持ちがあるのかないのか、その状況をちょっとお願いしたいと。

【都市政策課】 都市政策課の白石です。ただいまの済美高校前の交差点付近の

鉄道高架だと考えてますが、伊予鉄道の鉄道高架につきましては、現在、JRの鉄道高架を行っております。それと先ほど市長も説明しましたように、外環状線で渋滞緩和を図る形で外環状線の整備に取り組んでいるところです。そういう交通の円滑化の事業いろんなことをやっているわけですけど、そういうことを効果を踏まえて今後、伊予鉄道の鉄道高架につきましても関係機関と協議しましてまた、検討してまいりたいと考えております。

【男性】 研究ですか。

【都市政策課長】 研究とあわせて、検討もしてまいりたいと考えております。

【市長】 私から申し上げます。これは伊予鉄道さんがされることになりますよね、鉄道高架事業。例えば松山市がものすごくお金があるんだったら、松山市の渋滞緩和につながることでありますから、松山市のお金、税金を伊予鉄道さんにだいぶお払いして鉄道高架しましょうということもできるかもしれないんですけども、先ほど申し上げたようになかなか財政が厳しい状況であります。まずは外環状線を整備することで市内の渋滞緩和に努めると思っていますので、これは平成2年に関係者が集まった協議会が設置されまして、JR予讃線と伊予鉄道3線、横河原線と高浜線、郡中線、この高架化を検討した結果、道路交通の円滑化だけじゃなくて、駅前広場の再整備だとか、周辺市街地の再整備などさまざまな波及効果のあるJR予讃線を優先して整備していこうというのを平成12年に決定したところです。ですので、段階を踏まえていろいろと協議をしてきて、この形でと今なっているわけですので、渋滞については外環状線をつくることで解消に向けていこうというところで、これがまた、松山市が持つてゐる鉄道だったら話はまた違うのかもしれないですけど、伊予鉄道の線路という形になりますから、伊予鉄道が主体であるということがまた違うところでもあります。

【男性】 そこわかってる。指導する方向性があるのかないのか。

【市長】 これ、ないということはありません。私も通行するものとして、あの線路が高架になればかなり交通がスムーズになろうというのはわかっておりますので、それはもちろんずっと検討はしていきます。

【男性】 今、平成2年に県と市が検討協議会を立ち上げて、平成6年、7年ごろまで来ますと、発会式を1回、そしてその協議会を1回、たった2回くらいしかしてません、それで12年まで塩漬けにされてたという事実を、市長さんご存

知ですね。

【市長】 私知らないです、それは。

【男性】 よく事務当局聞いてみてください。そういう非常に景気のいい時代に塩漬けにされて、お金がなくなっはじめて、そして四国でどんびりやから最高の駅前をつくりましょうというキャッチフレーズですね、そのあたりを十分にご理解をいただいて、施策にご指導を賜りたいと思います。

【市長】 塩漬けにしてたんですか。

【男性】 そうですよ。

【市長】 そんな経過があるんですか、そのころ。

【松山駅周辺整備課長】 おっしゃられたように松山鉄道高架検討協議会、平成6年から12年までちょっと期間があいてるということがございました。今、ありがたいお言葉いただきまして、ぜひ立派なJR松山駅周辺整備を進めていきたいと考えております、ありがとうございます。

【司会】 それではそろそろテーマ3のほうに移りたいと思います。ではテーマ3は「暮らしの安全安心と福祉対策について」でございますが、この内容で、はい、今手が挙がった方。

【男性】 河川水路課さんには常にお世話になってありがとうございます。この席をお借りしてお礼申し上げます。私がお伺いしたいのは、松山市道新玉27号線といってもぴんときませんが、旧宮前川の河川を埋めるなり暗渠にするなりして道路の拡幅工事をしてほしいということで、前町内会長を始め関係の方々がたくさん何回にもわたって市、県に陳情しておりました。この宮前川は昭和46年から47年ごろから県の事業として始めましてようやく完成近く、JRの朝美踏切まで大体工事が終わったようです。ところがこの工事が進むにつれて、旧河川は荒れ放題、水が流れません。季節によっては草が生い茂り、人が落ちてもわからない、そんな状況になっております。で、心ない人がですね、空き缶を捨てたりごみを捨てたり、盗難車が投棄されたり原付まで落ちてます。そんな状況の中で町内会の役員の方初め、高齢クラブの方々、清掃活動や河川の維持管理協力していただいているんですが、なにさま、はっきり言って申し訳ないんですがお年です、もう限度です。そんなことからぜひ早く、宮前川を埋め立てるなりして松山市道新玉27号線を確保していただきたいと。で、今年の1月17日に、松山市の道

路建設課の方が市道と民地との境界の確定の立ち会いがありました。これ見てみるとようやくこの陳情していただいたおかげで事業が前向いて進み始めたのかな。住民に目に見える形で事業が進み始めたのかな。ちょっと安心はしてるんですが、聞いてみるのにまだまだ予算の関係もあるのでいつごろまでにという返事にはできないということは聞いております。予算がつき次第、できるだけ早い機会に拡幅していただいて、子どもの通学路にもなっております、ぜひ早い機会に完成していただいたらと思います。以上です。

【市長】 はい。わかりました。これは皆さんにいい報告ができます。これはできます。来年度、ですから4月からこの4月からっていう話になりますけれども、旧宮前川の川、廃川の敷地部分の用地を愛媛県から寄付または買収によって道路用地として取得します。で、その後で一部工事を開始する予定です。動き出します。事業費は、国の社会資本整備総合交付金事業というのがありまして、それを活用してできるだけ早くというふうに目指しております。そういうお答えになります。ようやく動き出しましたのでお待たせしましたというところです。私も、あそこの道はバスが通りますよね。個人的なことになりますけれども、自分の子どもが習字教室に通う道でありますので、こんな細い道をよくバスが通ってるな、自分も車で通るときに離合がちょっと怖いという細い道でありましたので、何とか早く広げることができないのかなと思ってたんですけど、来年度、つまり今年の4月から動き出しますのでお待たせをいたしましたということで。

【男性】 一つお聞きしたいんですが、下水処理場、今空地になっておるところです。これ実は15年くらい空地になってるんじゃないかと思いますが、これはたいてい補助金の関係があつてなかなか難しいんじゃないかと思つてるんですが、これはいろんな点で犯罪とかそして経済の問題とかいろいろな問題で絡んでくると思うんですが、これを空地にしておくのは問題があるし、下水処理場はこれええ悪いをいうたら先輩に怒られるんですけど、もう人口が減っていくからあんまり必要がないかもわからんと思ったりしよるんですが、そののところこれからどうするのかお聞きしたいと思うんです。

【市長】 はい、私からちょっと述べさせていただきます。先ほど財政のお話をさせていただきましたけれど、本当にお金があればやりたいこといっぱいあるんです。先ほど言っていたいただいた伊予鉄道の高架のこともそうです。例えばこのJR

松山駅周辺の「こんなもの建てますよ、あんなもの建てますよ」って。でも申し訳ないですけど高度経済成長の税収がどんどん上がっていく、日本の経済も元気で税収がどんどん上がっていくって世の中だったら、箱物をぼんぼんつくっていくって世の中だったかも知れませんが、でもそれができない時代になってきている。よく言われるように少子高齢化の時代です。松山はそんなに極端に人口が減っていくってはないんですけど、現役減少社会になる。現役の人、税金を払ってくれる方々が少なくなっていく世の中が想像されてます。やっぱり箱物をぼんぼんつくっていくって時代ではなくなっているところです。ですので、預かる身といたしましては、あそこ下水処理場にあいてる土地があったら、あそこ売ったらええやないの、民間出身ですから、あいてる土地があったら売ったらええやないのって思うんですけども、これも経緯がありましてあそこは置いておかなければならない土地なんです。

【下水道政策課長】 下水道政策課の青木と申します。中央浄化センターの件では新玉地区の皆様にご協力をいただきましてありがとうございます。まず、お礼を申し上げます。それで南側用地が約15年間空地になっている件でございますけれども、確かにご指摘の通りでございます。ただあそこの処理場は、中央処理区といたしまして今現在整備をしておる久米とか桑原とかあのあたり一帯の下水を集める区域になってございまして、現在その整備率が約60パーセント、半分強というところでございます。したがってこれから順次整備も進めますので、その整備に伴ってまた汚水が増加してきたらそこをまた増設していかなければならないということで、現在計画が位置づけられておるものでございます。ただ、ご承知のように平成6年の大渇水がありまして、市民の皆様の節水のご協力によって水の使用量が今現在減っております。そういう形で増設の時期が少し延びておるということで、平成9年ごろにはもうそろそろ増設せないかなという時期が本当ございました。で、実際計画をしたんですが、その後、その水量の実績を見ると、もうちょっと待てるよ、もうちょっと待てるという形で水の量があまり伸びなかったということで、今現在、空地になっておる期間が非常に長引いておるということでございますけれども、最終的には、南側用地にも施設を計画をするという時期がまいりますので、市長言いましたけれども、確かにあいておったら下水道経営も厳しいですから売ったらいいということもあるんですけど、

そこまではできないという実態でございますのでよろしくお願いをいたします。

【男性】 交通安全についてお願いをしてまいりたいと思います。松山駅前交番があります。これは東署管内12派出所交番の中で事故の扱い件数が一番多くございます。ということは新玉地区が事故が多いということでございます。これどうしてこの事故が多いんだろうかと思っておりますと、新玉地区にはJRの松山駅、これには郊外バス、市内電車、バス、いろいろのターミナルになっておりまして、大変交通量の多い混雑するところでございます。事故を起こしたんを私は時々見に行きます。どうしてこういう事故が起こるんであろうかと。追突事故いろいろありますが、これは新玉地区の人が事故を起こすんじゃなくて、よそから来た人が事故を起こすということになっております。どうしてよそから来た人が事故を起こすかという、地理不案内のためにこのような事故が起こっております。県道、国道、市道、主要道路におきましては道路標識があります。案内標識、警戒標識、規制標識、指示標識、補助標識、こういう標識が主な道路には標示しております。ところが一般市道へ入りますと一つもそのそういう標識が割合少ない。また、まして今ここを走ってるだろうかと思うとやっぱり町名の表示というものが一切ありません。町名を表示することによって事故がいろいろなことが起こるときに大変便利であります。私の知人が30年ぶりに松山に参りまして、それから市内を方々案内します。ところが「ここら辺はどこ走りよんだろう」とこう言うと実際案内しておる私自体もどこを走っとるかという回答に苦しんでおります。このことについてやはり市道における町名表示というのを私はしていただきたい、このように思っております。21日にはパルティフジの南側の交差点におきまして、女性の方のオートバイと軽自動車衝突して亡くなっております。私も現場へ行ってみますと注意とかいう標識は一切ございません。これは市道でございます。たまたまパルティのほうからオートバイで出られた女性が東から西向いて行く乗用車にはねられて、そのはねられた拍子にポールに当たって亡くなってしまったとこういう痛ましい事故が起こっております。現在愛媛県におきまして8名の死亡事故者がおります。そのうち3名は松山東管内の死亡者でございます。ということを考えていただきますと、やっぱり地区を離れて一步外へ出たらどこ走りよるやら一つもわからん。今は車にはナビがついておりますが、しかしナビを見ないでくださいと。市内を走るときには道路標識を探して走ってくだ

さいと。それは市内には道路標識は何もないんやからそりゃ当然事故が起こってくるのは間違いはない。

【市長】 私のほうからちょっと勉強させてほしいんですが、新玉地区で事故の多い場所3つぐらいちょっと教えてもらえませんか。

【男性】 事故数ですか。

【市長】 事故の多い場所。

【男性】 多い場所というのは、大体三番町の通りとかいろいろありますけど、発生件数の道路のところは細かに調べておりませんが。交番に届ける事故というものが松山駅前交番が1番多いんです。

【市長】 わかりました。今松山市役所と警察の交通のほうとはいい連携が取れてると思います。国土交通省とも一緒になって自転車ができるだけ事故起こさないように一方通行を県庁前通りでやったりとか、さっき申し上げたように、少子高齢化時代ますます進むというとお年を召した方、障がいを持たれた方が出てくるだろう。で、子どもは少ない、本当に子どもは宝。子どもとお母さんが手つないで、手離れた瞬間に自転車とぶつかって亡くなるケースもありますよね。ですからそうならないように歩行者は歩行者、自転車は自転車ときっちりと区分をされていく時代になっていくと思うんです。そういう試みを国土交通省や警察と一緒にやってる、今いろんな連携が取れているところかな。松山市もこの4月から、小学校3年生に自転車免許証というのを出します。これはちょっと今自転車のマナーが悪くなっているので小学生、なぜ3年生かという、1年、2年生はまだあんまり乗らないんだそうですね。3年生くらいから本格的に乗り出すということで自転車免許証、紙じゃなくて、ちょっといいものにして。もう紙だとお母さんたちに捨てられちゃうといけませんので。例えば自転車免許証持てると市有施設、例えばアクアパレットだと割引ができるとかそういうちょっといいものをつけて、子どもたちに署名してもらって「私は交通ルールを守ります」みたいな自転車免許証を発行しようと思ってます。とにかく事故を減らしたいって思ってるんですよ。そういう今連携をしているところですけど、標識のことについて何か。

【都市政策課長】 標識についてはもうご存知だと思いますけど道路管理者、市道の管理者、松山市または警察、いうふうな警戒標識とか案内標識ございます。

今のお尋ねの町名の標識ということなんですけど、これも市役所に持ち帰らせていただいて、また検討させていただきたいと思いますので、またよろしく願います。

【男性】 先ほども済美の高架の話が出て、これ私聞いて帰りたかったんですけど、先ほどいろいろと流れを聞きましてそうかということで。近所に住んどるもんですけん提案いう形になるのかな、いっぺん現地を警察の方が検証していただいて、どんなことの交通指導をしたらええかとか、いっぺんも警察の方見えてないんですよ。一度そこらで検討してどういうことをしたらいいのかというのをぜひ願います。

【市長】 はい、わかりました。これ早速県警のほう伝えようと思います。これも私の個人的なことになるんですけども、実は20歳のときに同級生を亡くしております。やっぱり急に友人が亡くなるとどんだけ空虚な気持ちになるかというかはよくよく知ってますので、交通事故、1件でもそういう辛い思いをする人もなくしたいと持ってます。ですのでこれは早速これは警察のほうへ伝えますので持ち帰らせていただいたらと思います

【男性】 今すぐできることは難しいと思いますが、私たち高齢者は介護保険にかからないように、できるだけ生きとる間は人に迷惑かけないようにと思って、健康状態については常々自分自身で身を律するというのを心がけてるつもりでございますが、これは松山市だけでは無理だろうと思うんです。というのは昔の国民保険のときには毎年人間ドックに希望者は健康保険組合のほうから指導してもらって、毎年受けて一応安心をしておりましたが、今度は高齢者保険になってきますと、広域行政になって、松山市だけではなかなかそれができないということで、高齢者保険になってからは人間ドックが受けられないということになっております。金のかかることですから、すぐやってやろうとはいうことにはならないと思いますけれども、やっぱり介護保険を使わないように健康であることが1番人に迷惑かけないことですから、そこらあたりはひとつ何とか相談をしていただいて、明るい方向で問題を解決する方向で努力いただけないだろうか。今一つはこれも松山市だけではできないんですけども、プライバシーの問題があって、私の町内会でも民生委員の方々の世代交代の時期に来ておると思うんです。従来も民生委員やっておられた方が60から70になって、今30から40の人たち

が世話を願っておると。ところがこの人たちにはひとり独居老人を確認をするのに、プライバシー等の問題があってなかなか確認が難しいという苦勞を話されておりました。これはやっぱり人権問題もあるでしょうけど、実態を調査することは、お互い人間社会の中においては人間尊重の意味からいっても必要なことだろうと。そういう意味でひとつ何らかの形でこれを強制的にとっては何ですけど、調査がしやすいように、連絡が取りやすい仕組みを市としても考えていただきたいと。以上でございます。

【市長】 はい、ありがとうございます。連絡先のこと大濱課長から言って、私医療のことについて、医療費のことについて。

【保健福祉政策課長】 医療のことについて。前段のお話についてお答えします。おっしゃる通り高齢者医療につきましては愛媛県内の20市町が合同で保険者を立ち上げておりました、その20市町の合同で立ち上げた保険者の中で検討することになっております。国民健康保険も同じですが、特定健康診査という事業が国の事業でございます。この事業で血液検査であるとか、尿検査であるとか、いろんな検査を行ってそれを今後の生活、あるいは健康状態の把握に努めていただくという国の事業なんですけど、こういった事業を平成20年から立ち上げております。これは国民健康保険に加入されてる方も、後期高齢者医療制度に加入されてる方もそういった制度がございます。以前まで国民健康保険でミニドック健診というものがございましたが、そういった健診に変えていこうという扱いをしておりますので、今ある事業の中でご自身の健康管理に努めていただきたいと思います。よろしく願いをいたします。

【市長】 あと連絡先について。情報ですね。個人情報の絡みもあるけれどもと。

【保健福祉政策課長】 個人情報につきましては今、松山市で個人情報保護法の問題で、民生委員に災害時の保護が必要な要援護者についての情報提供を検討しております。こういった中で個人情報といいながらも、災害があった場合に速やかに地域で援助が必要な方の把握ができる対策を今、講じておりますので、もしばらくお待ちいただいたらと思っております。

【市長】 もし倒れたときにお話できないですね。そういう例えば独居の方が倒れたときに自分の飲んでる薬とか自分の情報がわかるようなもの冷蔵庫の中に入れておく「安心キット」というのが最近松山市で始めています。こういう新

しい取り組みもしております。医療費のことと先ほどご質問いただいた花園町のことがちょっとリンクして関係をつけてお話できますのでちょっとお話をさせてください。できるだけコンパクトにお話をさせていただきたいと思いますが、これからは歩いて暮らせるまちづくりをすべきだと思います。松山はまだ全国の都市の中では希望が持てるというお話をさせてください。今、大都市問題なんていわれてますけども、都会におったら車が渋滞するとか通勤電車がめちゃくちゃ混むとか、CO2もいっぱい出る、温暖化だとかいろんな大都市の問題があります。大きい、大きすぎる、一極集中しすぎた、そういった中で、ちょっと日本よりも少子高齢化が早くやってきたのがヨーロッパです。で、ヨーロッパのまちづくりを学べる場所がいっぱいあるんです。例えばパリで言うと首都圏という言い方がありますが、パリ圏は1,120万人くらい人口がいます。1,120万でどんとやって行こうって考え方ではなくて、50万都市を20つくっていかうという発想なんです。これはフランス語読みですから英語でわかりやすく言うとコミュニティアーバン、「都市共同体」っていう考え方なんですけれども、50万人になったらその都市共同体をつくっていいですよということになってます。つまり、50万人というのがすごいいい規模なんです。松山、52万人、ちょうどいい都市規模なんです。松山は都市の中心に公園とか病院とか学校とか役所が集まってる所なんです。これは奇跡の都市って言われるようなところもありまして、皆さんも全国に行かれたら、これが当たり前やと思ってたけれどもそうじゃなかったんだ。松山がこうやって集まってるのが当たり前じゃなかったんだ、気づかれると思います。意外と役場が離れたところにあったりとか、役場と病院が離れたところにあったりとか、大学が離れたところにあったりとか、そういう松山は都市の機能が集約できる所なんです。これからはさっき申し上げたように現役減少社会に入ります。つまり、税金を払ってくれる人が少なくなってくる。そういった中で人口も減少してくる。そういった中で大きい道路をどんどんつくるとか、上水道下水道をどんどん郊外へ延ばしていくっていう発想ではなくなります。これは郊外に住むなっていう話じゃありません。郊外に住む方にももちろん目配り気配りはいたします。私も北条が実家ですからどっかいたら郊外のほうですよ。松山は電車、バスが公共の交通機関がまちの真ん中をぐるりと回っているというのは非常に大きいことです。これから高齢化していき

ますのでどっちかいうたら自動車中心の世の中やったけれども、高齢化して目もあんまり見えなくなる、体力も落ちてくるというので免許を返上するという方も増えてくるでしょう。車がなかったら生きていけないという世の中ではだめ。公共交通機関っていうのが大いに機能するようになってくる。これからはちょっと英語で訳しますんで。「transit oriented development」っていう transit 移動、輸送ですね、を oriented 適応させて、development 発展させる。平たく言うと住むところと商売の土地を近くにして公共の交通機関をそれに適応させて、歩く人、自転車をもっと発展させようという考え方があるんです。それをやろうと思ったら商業地、大街道、銀天街と住むところを接近させて、例えば大街道、銀天街ですよ。公共交通を適応させて、公共交通残ってるじゃないですか、松山。これ電車がなかったらできない話ですよ。そして歩く人、自転車の人を発展させていこう、免許がなくてもやっていけるようにっていう都市のつくり方がこれから主流になります。それができるところが松山なんです。ものすごく可能性のあるところが松山なんです。今、花園町をなんでやろうとしているかと言うと、花園町の東の商店街はアーケード40年経ってます、かなり老朽化してます。そういった中で電線の地中化が国と一緒にできて、そういう流れになってます。もしあそこをさっき言ったとおり、歩く人、自転車の人とちゃんと区分できて、今車の通行量調査をまさにデータがあるんですけども、今の量から考えると1車線でいけるんです。もちろん右折レーンとか左折レーンとかもつくる気持ちでおります。もちろん皆さんと一緒に計画をつくっています。いろんな方とお話をしながら、押しつける気はまったくありません。でも、通行量をちゃんと把握して今考えてみてください。花園町通りは電車が複線走ってて、両方に2車線ずつあって、イチヨウ並木があって、副道があって、アーケード商店街がある。40メートルの幅広い通りです。車の多く活躍する使い方なんですけど、もうちょっと歩く人、自転車に配慮した空間の使い方ができないかっていうことなんです。これを皆さんと一緒に計画をしていこう。そしてもう一つだけ、やっぱりまちの中心部っていうのは都市のエネルギーなんです。オフィスがある、商店があるということで税金がいただける場所なんです。今中心がどうなってますか。どんどんどんどんコインパーキングが増えていっている、中心部の魅力がなくなっている。これからは集約していくんだっていう話。郊外に住むなっていう話じゃないですよ。

医療費の話をしていただきましてありがとうございます。国においては、国民一人一人が1日3千歩歩いていただいたら国全体でいうと医療費が2,700億円削減できるんです。こういうデータが出てます。2,700億円医療費を削減できたら何がいいんだっていったらほかの事業ができるんですよ。道路も大事、医療も大事、福祉、おじいちゃんおばあちゃんのこと大事、子どもたちの教育も大事、やらなきゃいけないこといっぱいあるんです。お金がいっぱいあったらいろんなことやりたいですよ。でもそういう時代じゃなくなってる。だから一人一人に、東京の方っていったら地下鉄の移動なんかで松山の人に比べるとよく歩きますよね。松山の人はいんまり歩いてないです、それに比べると。これはおじいちゃんおばあちゃん腰が痛い、膝が悪いっていう人に歩けって話じゃないんです。歩ける人はもうちょっと歩いてみませんかというお話なんです。これをするによって今、城山、まちの中心部にあんな芝生のきれいな公園あるところはめったにないですよ、全国でも。城山、花園町があって市駅です。交通の結節点、多くの人が乗り降りするところ。そこから銀天街、雨でもお買い物ができます。大街道雨でもお買い物ができます。そして新しくなったロープウェイ街、きれいになりました。平和通り、平和通りも句碑が結構建ってます。県民文化会館まで行って県民文化会館の東側には俳句の道といういい道ができてます。俳句の道を右に曲がって道後のほうにきたつの道っていうきれいな道ができてます。水の流れがあります。歩いて楽しいまちづくりには水と緑が大事なんです。その水がもう流れているにきたつの通りがあります。道後商店街があります。道後温泉本館、この堀之内から道後温泉本館まで4.5キロ、歩くと1時間のいい道のりなんです。まちの中心部はまちのエネルギーだって申しあげました、大街道、銀天街は商業地です。そこをもっと歩いていただくようになって、もっとお買い物していただくようになったら松山の地方経済の活性化につながるんです。ですから花園町を、魅力のあるところですがちょっと欠ける部分がある。それは年が経ったから。だから今やるべきところは花園町なんだっていうので今やろうとしてるんです。もちろん皆さんとお話をしながらやっていきます。大手町もいずれそうなると思います。堀之内、大手町、きれいになるJR、線路が延びる総合公園、一体的な整備ができるでしょう。だからやってるんです。選択と集中で今松山には何をせないかんかというのを考えてやってるというのをご理解いただけたらと

思います。すみません、長くなりましたけれども。

【男性】 お世話になります。3点ほどあるんですけども1点は、この公民館の横に賃貸マンションがあるんですけどもそのマンションの前の道の千舟町との角の交差点の改良をお願いできないかと思うんですけども。市民病院のほうから出てきまして、ちょうどその千舟町の角のところが本当に狭くなってるんですよ。何年か前にバイクの方が交通事故で多分亡くなったんじゃないかと思うんです。

【市長】 一つ一ついきましょうか。

【都市政策課長】 交差点につきましては、私も現場確認させていただきました。非常に鋭角になっていて幅員が狭いところですので、今後交差点改良を行うためには地権者さんの同意が必要でございます。ですから町内会、または改良区さんにご相談されて、また地権者さんの同意をとっていただければ、非常に危険な交差点ですので事業ができると思います。よろしくをお願いします。

【市長】 もしわからないことがあったら皆さん専門家ではないのでなかなかわかりにくいと思いますので、このあとでも聞いていただいたらどのように進めたらいいかわかると思いますので。そうですね、このあとちょっと言っていただいたらご説明できるかと思います。

【男性】 そして次は信号機のことなんですけども、時差式の信号機につきましては矢印をつけていただけないかと思うんですけども。時差式であってもいつ行っていいかわからないところがあるんですけど。

【市長】 はい、これについては私も思うときあります。時差式って何か怖いですよ。これについては警察のほうの担当になりますので場所をこの後、担当に言っていただいたら警察に伝えますので、はい。

【男性】 新玉校区とは関係ないんですけども、国道沿いの雑草関係が最近目立つんですけども、もう中にはたまらず、歩道に面してる方がもう本当に朝から仕事をしないで、その仕事の会社の仕事がそこの草取りだというような感じのところもありましてですね、すみませندうも。以上です。

【都市政策課長】 後ほど場所また教えていただきたいと思います。

【男性】 実は今年の12月19日に松山市河川水路課の要請で、マンホールがあふれるという内水のハザードマップをつくるというので新玉地区からは私と消

防団の団長が行きました。八坂、番町、新玉を中心にビジネス街、1番人通りの多いところでマンホールがふいたということで優先的にここへハザードマップをつくろうという会に呼ばれたんですが、平成16年と21年に確かにマンホールふきました。古照も何カ所かふきました。そのときにまず原案として、そのときに1時間あたりの雨量はどれくらいであったか、1日の雨量はどれくらいであったか、確実な数字は把握していない状態で始まりました。それで次はいつやるのかと言うたら、今年の5月ごろに結果を出します。「何。」と言って私は聞き直したんです。あのときに、16年のときには確かに大きくふいたけれども、それから後にはかなり下水道はマンホールを通つとる、道路に埋まつとるヒューム管は変えた、だから同じ量で雨が降ったとしてもそう簡単にマンホールはふかんと思いがなぜ、今いずれやるんじゃないじゃったら新しい雨量と時間雨量と総雨量とを入れたいわゆるシュミレーションをつくるべきではないかということはその場で提案したんです。けれども結局東京の業者がどこまで16年と21年の記録を持っておるか知らんけれども、次、今年の5月ごろに結果を出すからこれでいいですかということをお聞きすると。これじゃったら完全に松山市は東京の業者に丸投げしとるということです。シュミレーションをつくるときにそういう新しいデータを入れて、計算を起こすということをしてほしい。なぜこういうことを言うかと言いますと、いわゆる中心街から最後に来るのは南江戸の終末処理場なんです。あれ、平地であったんですが、千舟町線と西環状線ができたために、処理場用地が低なつてしまつとるんです。それでもしも川の氾濫でなくてもいわゆるマンホールの氾濫で1番最初に水浸しになるのは処理場やと思うんです。あの処理場は今までも上に建物が建つておつて公園にもなつておりますが、下は横から水が流れてきたら直接入るような構造になつとるんです。だからまずそのハザードマップをつくるときには新玉地区ではあの処理場の水を、外から流れる水を防止することを最初に考えてほしいという提案をしたんです。皆さんの話とはだいぶ違いますけれども非常に大事なことですからご検討お願いします。

【市長】 はい、これは下水道政策課長ですか。

【下水道政策課長】 ご協力ありがとうございます。少し雨のことをご説明をさせていただきたいんですが、確かにちょっと不備な点があったことは大変申し訳ないと思っておりますが、松山市の下水道計画の中で雨水の計画、これ時間雨量

は40ミリ。で、10年確率で、10年に1度の大雨に対応するという事で整備をしております。しかしながらまだ皆さんご存知のように都会のほうではゲリラ豪雨ということで報告されておりました計画だけ、そういうハード整備だけではなかなか対応できない時代が来ております。そういう中で先ほどご説明ありました内水ハザードマップといたしまして、そういうゲリラ豪雨にも対応できることを考えていこうということで取り組みを始めたものでございます。といいますのは、ハード整備だけではそういうときにはとても対応できないから、まずは現実にどこが浸水をして、早く逃げてもらおうところはどこだろうかというところを見つけ出す。それを日ごろから皆様方に周知をして、こういうときになったら避難してくださいよということをまず皆様方知っていただく。そういう中で市民の皆様方の安全を図ることが目的の事業でございます。そういう中で東京の業者と言われたのは、多分そのシュミレーションをするのが特殊なコンピューターを使いますのでそういう業者が入っておるんだと思いますが、そして平成16年とか21年の実際の雨と、そういう今現在地中に埋まっておる雨水管を全部再現をして実際にコンピューターで回した浸水の被害の状況と皆様方が現実に把握しておる浸水の状況が正しいものかどうか、それをまず検証をして、そしてこの5月に提示をして、皆様方ご承知のものと、これ合ってるでしょうかということを確認するんだらうと思います。

【男性】 あなたそのときにその会におりましたか。

【下水道政策課長】 おりません、はい。

【男性】 私がその場で言ったことを聞いておるんだって言うのもいいですけど、確かにそうだったんですよ。

【下水道政策課長】 はい、それはすみません。ただ、シュミレーションという方法は、この地区が初めてではなくていろんな地区でもやっております。それは内水ハザードマップをつくる過程ではなくて、いろんな形でやっております。それについては愛媛大学の教授なんかも入っております、そういう形でやっておりますので、恐らくという形でお話はさせていただいたんですけども、そういう過程を踏んで皆様方に危険なところを知ってもらおうという形でしてありますので、至らぬ点あるかと思いますが今後も今後ご協力をお願いしたいと思います。

【男性】 もう一言言わせてください。ほかでもやっておると言いますが

そのときは1番最初はここなんだと松山市全体やりたいけれど、ほかでやっというところのこと一言も聞いてないですよ。

【下水道政策課長】 内水ハザードマップというのは、5地区をやる予定しておるんですけども、まず1番、やっぱり都市機能を集積しておるこの新玉地区始め、市内をまず1番に優先するというのがスタンスでございます。それでほかの地区は、下水道計画の過程でシミュレーションをやっておるといところでございます。

【男性】 南江戸公園のトイレの水が処理水なのか飲料水なのかというのが1点と、もう一つ洗車場をどうしてやめたのかというのと2点お願いしたらと思います。

【下水道政策課長】 洗車場をやめた件は、確かに下水の処理水をかなりきれいにして、高度処理水を皆さんに使っていただくということで一時しておったんですけども、洗車をしていただいた方の列ができて周辺の道路、通行の支障になるという苦情もございましたのでやむなく中止をしたという経緯がございます。それと南江戸公園のトイレの水道、場所を後ほど確認をさせていただいて、ご回答させていただいたらと思います。

【男性】 いやいやすぐわからんですか。トイレの水が飲料水か、処理水かというのを。

【下水道政策課長】 その南江戸公園というのは処理場の上部の公園のどこですか。

【男性】 そうそう、テニスコートの横の。

【下水道政策課長】 ちょっとすみません、その点確認してからお返事させていただきます。

【司会】 それでは最後に市長のほうから本日の感想を申し上げます。

【市長】 皆さんどうもお疲れ様でございました。ありがとうございました。今日いろんな意見が出たと思っております。これはありがたいことだと思っております。やはり冒頭に私が申し上げましたけれども、やはり行政が押しつけるのはいけないと思うんですよね。皆さんのお声をいただいて、そしてよりいいものにしていくというのが大事だと思いますので、こういった機会をいただけてよかったなと思っております。で、今回手を挙げたかったんやけど言えなかったという方もいらっしゃると思いますので市長へのはがきですとかわくわくメールという形で、今日、はがきを出口に用意しております。そのはがきも持ってきております

し、メールで私のところに声を寄せていただくのもできますので、今日手挙げれなかったという方は、そちらをご利用いただいたらと思います。今日いただいたご意見、すぐにお答えできなかつたものもありますけれども、これは必ず1カ月を目途にお答えを返させていただきますのでよろしく願いいたします。ちょっと私の思いを述べさせていただいてそれがよかったのかな、皆さんの手が挙げれなくしてしまったんだらうかとも思っておりますけれども、とにかく皆様の声を活かしながら市政を運営していきたいと思っておりますので今後ともどうぞよろしく願いいたします。今日はありがとうございました。

——了——